

平成 9 年度試験研究成果

区分	普及	題名	水稲オリジナル品種「かけはし」を用いた県北地域における稚苗移植栽培		
[要約] 県北地域では従来中・成苗による移植栽培を基本としてきたが、「かけはし」を用いることにより、県北地域においても稚苗移植栽培が可能と判断された。					
キーワード	かけはし	稚苗移植栽培	県北地域	県北農業研究所 やませ利用研究室	

1. 背景とねらい

県北地域における水稲移植栽培は作期幅が小さいこと及び生産の安定化を図る目的から従来中・成苗を基本としてきた。しかし、中成苗は労力・費用とも稚苗に比較し多くかかり、野菜等他作物との労力の競合もあることから、技術の開発が求められていた。

平成 5～9 年に実施した試験結果より、「かけはし」を用いることにより、県北地域においても稚苗移植栽培が可能と判断された。

2. 技術内容

- (1) 「かけはし」は中苗標準作期での同日移植の場合、稚苗と中苗の出穂・成熟期の差が小さく、中苗の「たかねみのり」よりも出穂・成熟期が早く、安全出穂期内に収穫させることが可能である。
- (2) 「かけはし」は品種特性上分けつの発生がおう盛で、穂数の確保が容易である。
- (3) 「かけはし」の中苗と稚苗移植栽培での収量・品質はほぼ同等である。
以上から「かけはし」を用いた場合には県北地域においても稚苗移植栽培が可能と考えられる。

3. 普及上の留意事項

- (1) 栽培法については中・成苗に準ずる。
- (2) 稚苗移植栽培では 2 次枝梗 / 1 次枝梗が高くなる傾向がみられるので、栽植密度 2 2 株 / m² 程度の確保を徹底する。
- (3) 稚苗移植栽培は中・成苗に比較し、初期分けつの発生がやや遅いので、健苗育苗に努めるとともに、初期の水管理に十分留意する。
- (4) 県北沿岸部のやませの特に強い地帯においては、安定栽培のため従来どおり中・成苗による移植栽培を基本とする。

4. 技術の適応地帯

北上川上流・下閉伊・北部の「たかねみのり」の中苗移植栽培が可能な地域

5. 当該事項に関わる試験研究課題

- [水田利用 2] - 3 - (4) - イ - (イ) - a 「かけはし」の栽培法
- [水田利用 2] - 4 - (5) - ア - (ア) 生育診断予測と対応技術

6. 参考文献・資料

- (1) 平成 3 年度 県が奨励する農産物優良品種 水稲(うるち)「岩手 3 4 号」
- (2) 平成 6 年度 普及指導上の参考事項 水稲品種「かけはし」の生育・栄養診断基準と栽培法
- (3) 平成 8 年度 普及指導上の参考事項 平成 8 年産「かけはし」の品質の特徴と品質向上対策
- (4) 試験成績概要書(平成 4 年～8 年) 岩手農試県北分場
- (5) 試験成績概要書(平成 9 年) 岩手県農研センター 県北農業研究所(未定稿)
- (6) 水田作に関する試験成績概要書(平成 4 年～8 年) 岩手農試技術部
- (7) 平成元年度指導上の参考事項「水稲生育診断・予測プログラムの利用」
- (8) 「リアルタイムメッシュ気象情報システム」利用の手引き 平成 4 年 3 月 岩手県農政部

7. 試験成績概要(具体的なデータ)

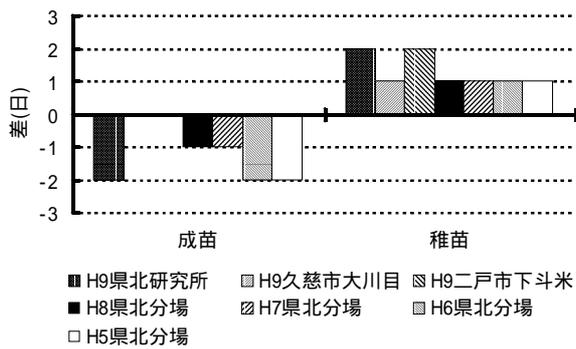


図1. 「かけはし」の中苗と成苗・稚苗との出穂期の差 (H5～9年県北分場・県北農業研究所, H9久慈・二戸)

注1: 平成9年の久慈市・二戸市の成苗での試験は実施していない。

概評: 試験年次における「かけはし」の中苗と稚苗の出穂期の差は1～2日と小さく、「かけはし」稚苗移植の成熟期は中苗「たかねみのり」より3日以上早い。

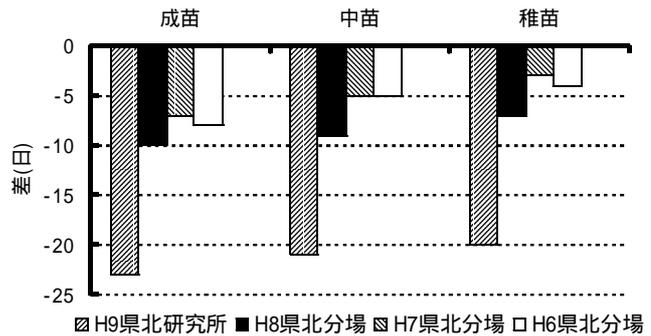
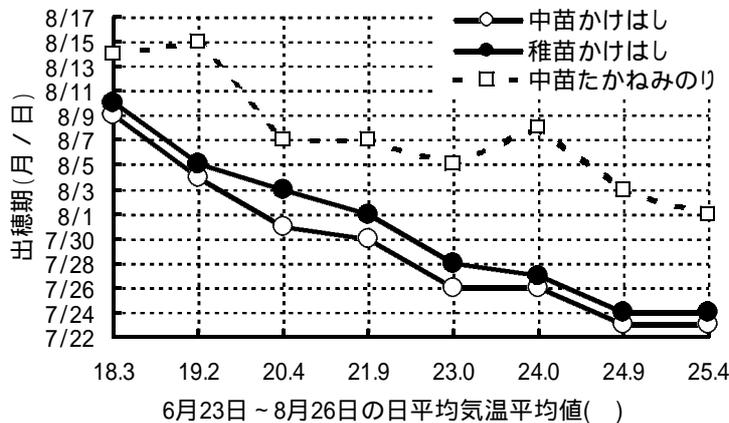


図2. 中苗「たかねみのり」と「かけはし」各苗質との成熟期の差 (H6～9年県北分場・県北農業研究所)



概評: 「かけはし」では、中苗・稚苗とも気温が高くなるほど出穂が早まる(低くなるほど出穂が遅れる)傾向がみられるが、試験条件下で中苗「たかねみのり」より遅れることはなかった。「かけはし」の中苗と稚苗の出穂期の差は2日程度であった。

図3. 気温差と出穂期 (H9東北農業試験場温度勾配チャンバーでの試験結果)

注1: 6月23日～8月26日(全個体出穂)のアメダス平均気温(地点: 軽米)の日平均値(平年値)は20.2
 注2: 6月23日に県北農業研究所圃場より生育中庸な株(3株/ポット: 1区8ポット, 合計24ポット)を鉢上げし、同日に施設に搬入、3mの等間隔に各区1ポットを設置。温度以外は同一条件。
 注3: 出穂期は全穂について出穂日を観察し、50%が出穂した日。

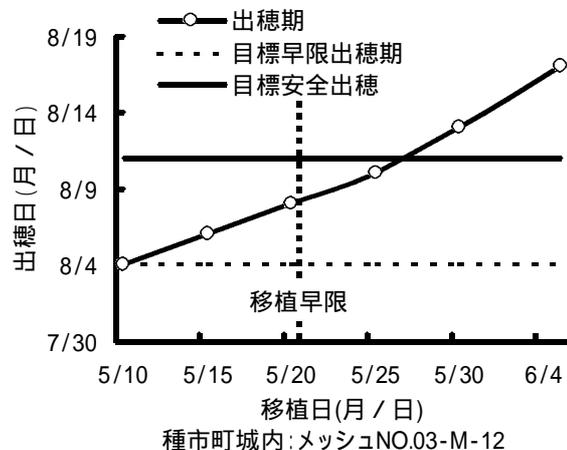
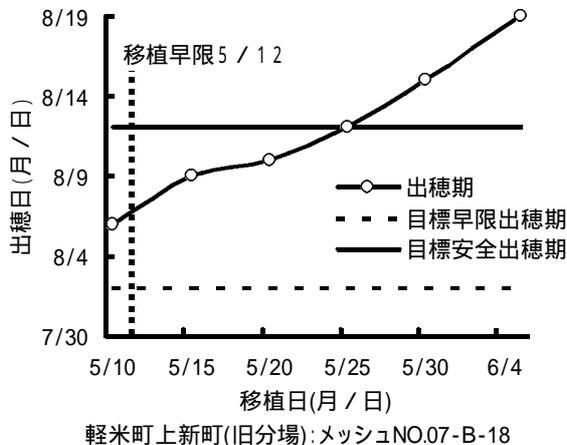


図4. 生育指数(DVI)を用いたリアルタイムメッシュ平年値による稚苗(2.5葉)移植の作期
 概評: 作期上も県北地域内陸部及び沿岸部でも稚苗移植は可能である。しかし、やませの特に強い地帯では年次による振れが大きいため、中・成苗を基本とすることが望ましい。